

【記入例② 畜産農業又はサービス業】

様式第1（第3条関係）（表面）

特定施設 ~~（有害物質貯蔵指定施設）~~ 設置 ~~（使用、変更）~~届出書

該当しない事項を二重線で見え消し

年 月 日

年号を記載
（平成、令和等）

宮城県知事 ○○ ○○ 殿

仙台市青葉区本町○丁目○番○号

○○水畜産株式会社

代表取締役 宮城 太郎

電話番号 022-○○○-○○○○

（氏名又は名称及び住所並びに法人に
あつては、その名称及び代表者の氏名）

届出者

設置届…第5条第1項
変更届…第7条
その他について詳細は保健所職員まで
お問い合わせください。

水質汚濁防止法第5条第1項、~~第2項又は第3項（第6条第1項又は第2項、第7条）~~

の規定により、特定施設 ~~（有害物質貯蔵指定施設）~~ について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称		○○畜産	※整理番号	
工場又は事業場の所在地		○○町△△1-2	※受理年月日	年 月 日
第5条第1項関係	特定施設の種類	1-2(イ) 豚房施設 ←	令別表第1の番号及び名称を記載すること。	
	有害物質使用特定施設の該当の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	※審査結果	
	△特定施設の構造	別紙1のとおり。	※備考	
	△特定施設の設備（有害物質使用特定施設の場合に限る。）	別紙1の2のとおり。		
	△特定施設の使用の方法	別紙2のとおり。		
	△汚水等の処理の方法	別紙3のとおり。		
	△排出水の汚染状態及び量	別紙4のとおり。		
	△排出水の排水系統別の汚染状態及び量	別紙5のとおり。		
第5条第2項関係	有害物質使用特定施設の種類			
	△有害物質使用特定施設の構造	別紙7のとおり。		
	△有害物質使用特定施設の使用の方法	別紙8のとおり。		
	△汚水等の処理の方法	別紙9のとおり。		
	△特定地下浸透水の浸透の方法	別紙10のとおり。		
△特定地下浸透水に係る用水及び排水の系統	別紙11のとおり。			

様式第1（第3条関係）（裏面）

第5条第3項関係	有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の別	<input type="checkbox"/> 有害物質使用特定施設 <input type="checkbox"/> 有害物質貯蔵指定施設		
	△有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の構造	別紙12のとおり。		
	△有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の設備	別紙13のとおり。		
	△有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の使用の方法	別紙14のとおり。		
	△施設において製造され、使用され、若しくは処理される有害物質に係る用水及び排水の系統又は施設において貯蔵される有害物質に係る搬入及び搬出の系統	別紙15のとおり。		

- 備考
- 1 特定施設の種類の欄及び有害物質使用特定施設の種類の欄には、令別表第一に掲げる号番号及び名称（指定地域特定施設にあつては、名称）を記載すること。
 - 2 有害物質使用特定施設の該当の有無の欄には、該当するものにレ印を記入すること。なお、有害物質使用特定施設に該当しない場合には、別紙1の2を提出することを要しない。
 - 3 有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の別の欄には、該当する施設にレ印を記入すること。
 - 4 △印の欄の記載については、別紙によることとし、かつ、できる限り、図面、表等を利用すること。
 - 5 ※印の欄には、記載しないこと。
 - 6 排水の排水系統別の汚染状態及び量については、指定地域内の工場又は事業場に係る届出書に限って欄を設けること。
 - 7 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
 - 8 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格A4とすること。

変更届出の場合は、変更の前後がわかるように記載すること。
(変更前、変更後でそれぞれ欄を設け、並べて記載するなど)

特定施設の構造	
工場又は事業場における施設番号	No. 1 肥育舎
特定施設号番号及び名称	1の2 (イ) 豚房施設
型 式	糞尿分離式豚舎
構 造	木造平屋式豚舎
主要寸法	豚舎面積 150 m ² 横 15 m×縦 10 m 豚房面積 120 m ² 横 12 m×縦 10 m 別添特定施設構造図参照
能 力	肉豚 ○○○頭
配 置	別添配置図のとおり。
設 置 年 月 日	⓪⓪ 年 月 日
工事着手予定年月日	⓪⓪ 年 月 日
工事完成予定年月日	⓪⓪ 年 月 日
使用開始予定年月日	⓪⓪ 年 月 日
その他参考となるべき事項	

全施設のうち、当該施設を特定するために用いている番号、名称があれば記載する。
※ 同型の施設を複数設置する場合にはまとめて記載する。このとき施設数が分かるように記載する。
※ 豚房の用途（分娩豚房・子豚房・肥育豚房など）を記載する。

排水の有り無しや汚水の状態の把握できる型式を記載する。
例) 糞尿混合式豚舎 敷料使用豚舎等

施設の材質（木製、コンクリート製、鉄製等）を記載する。
適宜、図面・仕様書等を添付する。
例) 鉄筋コンクリート造平屋式豚舎

施設の縦、横、高さ等について記載する。
※ 豚舎面積と豚房面積（作業用廊下等を差し引いた豚を飼養する面積）を記載する。
※ 特定施設構造図を添付する。

豚の種類（子豚、種雌豚など）と豚舎内に飼養可能な頭数を記載する。

場内の建物配置図を添付する。

使用届の場合は設置年月日を記載すること。

当該施設と同型の施設を同時に複数設置する場合にはその施設数を記載する。

- 備考 1 配置の欄には、当該特定施設及びこれに関連する主要機械又は主要装置の配置を記載すること。
- 2 その他参考となるべき事項の欄には、当該施設が有害物質使用特定施設に該当する場合には、施設の床面及び周囲の構造等を記載すること。

特定施設の使用の方法

工場又は事業場における施設番号	No. 1 肥育舎		別紙 1 と対応させて記載する。		
特定施設号番号及び名称	1 の 2 (イ) 豚房施設				
設置場所	別添配置図のとおり		場内の建物配置図を添付する。		
操業の系統	別添系統図のとおり		特定施設を含めた操業の系統図を添付する。		
使用時間間隔	6ヶ月毎に出荷のため豚の入れ替え		家畜の入れ替え周期を記載する。		
1日当たりの使用時間	24時間				
使用の季節的変動	なし				
原材料（消耗資材を含む。）の種類、使用方法及び1日当たりの使用量	飼料 ○○ kg ガク ○○ kg		飼料と敷料について、1日当たりの使用量を記載する。全体量×割合で出してもよい。		
汚水等の汚染状態	種類・項目	通常	最大	通常	最大
	pH	6~7	5~8		
	BOD	5,000	6,000		
	SS	4,500	5,000		
	アンモニア・アンモニウム化合物及び硝酸化合物	200	300		
	T-N	○○	○○		
	T-P	○○	○○		
汚水等の量 (m ³ /日)	通常	最大			
	58	60	※ 窒素又は燐についての排水基準が適応される地域に該当する場合のみ記載すること。		
その他参考となるべき事項	参考文献 畜産環境対策大事典 △△編 p ■■ 原尿の汚染状態を記載量の算出方法 肉豚 2.0kg × ○○頭		汚水等の汚染状態・量についての参考文献・量の算出根拠を記載すること（コピーの添付も可）。		

備考 汚水等の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

汚水処理施設を設置する場合には、
処理施設の設計計算書を添付する。

別紙 3

汚水等の処理の方法

工場又は事業場における施設番号	No. 3 排水処理施設				別紙 1 と対応させて記載する。		
処理施設の設置場所	別添配置図のとおり				場内の配置図を添付する。		
設置年月日	ⓐ 年	ⓑ 月	ⓒ 日		処理装置を具体的に表す名称(曝気槽、沈殿槽など)、型式等を記載する。		
工事着手予定年月日	ⓐ 年	ⓑ 月	ⓒ 日				
工事完成予定年月日	ⓐ 年	ⓑ 月	ⓒ 日		コンクリート、木製等型式ごとに記載する。別添として図面、仕様書等添付可		
使用開始予定年月日	ⓐ 年	ⓑ 月	ⓒ 日				
種類及び型式	排水処理施設 (活性汚泥法)				縦、横、深さ等の主要寸法、容量等について型式ごとに記載する。別添として図面、仕様書等の添付可		
構造	鉄筋コンクリート造						
主要寸法	別添資料のとおり						
能力	〇〇m³/日						
処理の方式	回分式活性汚泥法				処理の具体的な方法について記載する。		
処理の系統	別添処理系統図のとおり				汚水等の集水及び処理施設までの導水方法について記載する。		
集水及び導水の方法	同上						
使用時間間隔	なし						
1日当たりの使用時間	24時間						
使用の季節変動	なし						
消耗資材の1日当たりの用途別使用量	凝集剤 〇〇kg				排水処理時に使用する消耗資材の使用量を記載		
汚水等の汚染状態及び量	種類・項目	通常		最大		適用される排水基準について記載する。汚水量等について把握が困難な場合は、想定量で記載し、操業開始後の早い時期に変更届出を提出すること。	
		処理前	処理後	処理前	処理後		
	pH	6~7	6~7	5~7	5~7		
	BOD	5,000	30	6,000	30		
	SS	4,500	40	5,000	40		
	アンモニア・アンモニウム化合物及び硝酸化合物	6,000	600	6,000	600		窒素又は燐についての排水基準が適応される地域に該当する場合のみ。
量 (m ³ /日)	58	58	60	60	排出水の排出方法、排出口の位置、数及び排出先について記載する。排出先は、〇〇排水路→△△川→□□川とできるだけ詳細に記載する。		
残さの種類、1月間の種類別生成量及び処理方法	余剰汚泥 〇〇kg/月 残渣 〇〇kg/月				余剰汚泥・残渣が生じる場合に処理の方法について記載する。		
排出水の排出方法	排出口から〇〇川に排出 位置は別添配置図のとおり						
その他参考となるべき事項	(株)〇〇に委託して処理する。						

備考 1 汚水等の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排出水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

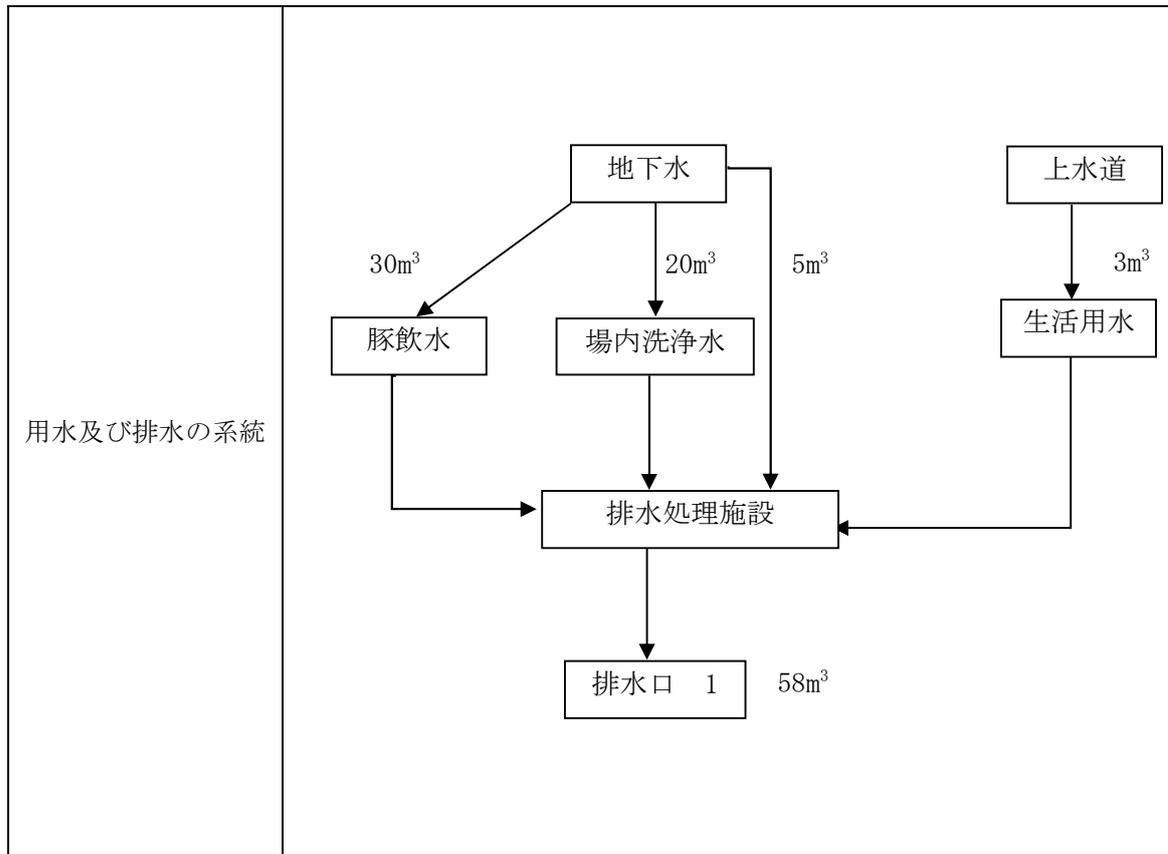
2 排出水の排出方法の欄には、排出口の位置及び数並びに排出先を含め記載すること。

排水水の汚染状態及び量

工場又は事業場における施設番号		排水口 1 ←		排水口毎の状況を記載する。 当該工場又は事業場において用いている番号、名称等があれば記載する。	
排水水の汚染状態	種類・項目	通常	最大	通常	最大
	pH	6~7	6~7		
	BOD	30	30		
	SS	40	40		
	アンモニア・アンモニア化合物及び硝酸化合物	600	600		
	T-N T-P				
排水水の量 (m ³ /日)		通常	最大	通常	最大
		58	60		
その他参考となるべき事項		排水施設はが複数ある場合には、排水施設と特定施設・汚水処理施設との関係について記載すること。			

備考 排水水の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

用水及び排水の系統



用水の使用用途を記載する。	用途	使用水	用水使用量 (m ³ /日)
	用途別 用水使用量	豚用飲用水	地下水
場内清掃水		地下水	20
排水処理施設希釈水		地下水	5
生活用水		上水道	3

用水の種類（上水道、工業用水、地下水、河川水、海水等）を記載する。